

この情報は株取引の盲点をついた情報です。株に興味がないという方もぜひ最後までお読みください。

購入して良かったと思われる情報だと自負しております。

まず、証券会社に口座を開設していることが条件になります。

持っていない方はすぐに開設しましょう。

その際、信用口座も開設してください。

おすすめはイトレード証券です。最も有名な証券会社です。

<https://newtrading.etrade.ne.jp/ETGate>

手数料が低いのと、すぐに信用口座が開けるのが魅力です。

通常、信用口座を開設するにはそれなりの審査（投資歴、年齢、収入）があるのですが、

イトレードが一番審査が緩いです。

なお、ブラックの方はイトレードでも信用口座開設できませんのでご注意ください。

松井でも野村でも構いませんが、ここではイトレードを推奨しておきます。

口座を開設された方は、次に市販の解説書を読んでください。

1冊だけで構いませんし、ななめ読みでも良いです。

感覚をつかんでもらうだけで結構です。

一目均衡表やストキャスティクスのような、難しい分析方法なんかは一切必要ありません。

次に実際に取引を始めてみます。

あくまで練習ですので、何百万もつぎこむ必要はありません。

10万円分だけでも結構です。ライブドアの株は500円あれば買えますので、

練習用にもってこいでしょう。松井や岩井なら、一日の約定金額が10万円までなら

手数料は不要です。松井+ライブドアは練習用にもってこいの組み合わせですね。

大事なことは、注文方法を覚えること。これです。

実際に、買って、売ることができればそれで十分です。儲けをだすことは必要ありません。

以上が現物取引の事例です。現物取引とは、自分のお金で株を買うことを言います。

当たり前のことなので特に問題はないでしょう。

次に、信用取引について勉強してもらいます。

信用取引とは、証券会社からお金や株を借りて取引することを言います。

信用取引には、信用買いと信用売りの2種類あります。

前者は、証券会社からお金を借りて株を買うことを言い、

後者は、証券会社から株を借りて売ると言います。

この情報に必要なのは、信用売りができるかどうかです。

『できる』だけで結構です。

信用売りで儲けをだすことまでは要求しません。できるだけ結構です。

続いて、信用売りについて基本的な説明をします。

通常の株取引では、株を買う 売る 差額分が儲け。ということになりますが、

信用売りの場合はそれが逆になります。

つまり、株を証券会社から借りて売る 市場から買い戻して、証券会社に返済

差額分が儲け。ということになります。

具体例をあげますと、A銘柄が1000円の時に証券会社から株を借りて市場で売る  
A銘柄が950円にまで下がった時に市場から買い戻して、  
証券会社に返済 50円の儲け。となります。このように、信用売りを使えば  
相場が下落している時でも利益をだすことができるのです。

以上が簡単な説明でしたが、詳しく知りたい方は解説書を読んでください。

ここまでが序論です。以上の知識を踏まえて本論に進んでください。

具体的方法です。勘のするどい方はもうお気づきだと思いますが、  
この技は株主優待券を利用します。

ご存知のとおり、株主優待券を実施している企業の株を保有していれば、  
誰でも優待券をもらえることができます。簡単に優待券の説明をさせていただきます。  
株主優待がもらえる権利が確定するのは、企業によって異なりますが、  
だいたい3月か9月です。もちろん4月に権利が確定する企業もあれば5月の企業もあります。  
そこらへんは、四季報か、次のホームページで調べることができます。

<http://www.miobeans.com/kabuyou/>

ここでは3月に優待を設定しているうかい（証券コード7621）を例にとってご説明します。

うかいの場合、3月末に株券を保有していれば優待券をもらえることができます。

しかし、名義書換の関係で、5 営業日前に株をもっていなければならない

というのが暗黙の約束です。2004年のカレンダーで言うと、

3月末といえば31日ですので、5 営業日前は25日になります。

（営業日とは、土日を除きます）ですので、25日にうかいの株をもっていれば、  
うかいの優待をうけることができます。

ちなみに、この事例で言えば、25日のことを『権利付き最終売買日』といいます。

26日に売っても問題ありません。極端に言えば、25日に買って26日に売っても、  
優待をうけることができます。

ちなみにうかいの優待は、2000円の食事券10枚、  
もしくは同額の特選うかい牛肉となっています。

箱根ガラスの森などの入場券（1300円）10枚ももらえます。（2004年現在）  
合計3万3千円になります。牛肉に興味がない人は他の企業でも構いません。  
百貨店や、家電店でも構いません。自分のお好きなものを選択してください。  
ここから具体的な方法を説明します。

以上では、株を買えば優待がもらえるという話をしました。

しかし、株価が下がれば優待をもらっても意味がありませんよね？

1万円分の優待をもらっても、2万円株価が下がれば損になってしまいます。

しかしこのリスクを避ける方法があるんです。

それは、現物買いと信用売りの組み合わせ、俗に両建てといわれている方法です。

A銘柄を買っている状態と、売っている状態の並存です。

この状態では何がおこるか？それは、株価があがってもさがっても

利益はでないが、損もでないということがおこります。

必要なのは売買手数料のみですが、ほとんど気にならない程度の出費です。

具体的に説明します。

A銘柄を現物で1000円で買って、なおかつ1000円で信用売りしたとしましょう。

この後、1100に値上がりすれば、現物で買った分については100円の含み益がでますが、信用売りの分については100円の含み損がでていることになります。

同じ100円ですのでプラスマイナスすると0になりますね？

利益もないが、損もないという状態です。

900円に下がった場合も同様のことが言えます。

利益もなければ損もありません。

しかしこの技を権利付き最終売買日に行ったらどうなるか？

上記の例でいえば、25日に両建てしておき、26日に全て決済

(現物買いの分は売り、信用売りの分は買い戻して証券会社に返済)しておけば、売買手数料のみで優待券が手に入ります。わかりましたでしょうか？簡単ですね。

注意すべき点がいくつかあります。

1点目は、現物買いの価格と、信用売りの価格をできるだけ同じ価格で行うこと。

1000円で現物買いすれば、1000円で信用売りをするということです。

もちろん、980円で現物買いをし、1020円で信用売りをし、1000円で反対売買すれば40円の利益になります。

しかし欲をかき過ぎるとよくないことがおきるのが世の常。980円で現物買いできても、

1020円まで上がらずそのままズルズル下がれば、本末転倒です。

あくまで狙うのは優待。売買益より、優待を目標にしましょう。

2点目は、出来高が多い銘柄で実行すること。

簡単に言えば、有名企業の銘柄で実行することです。

出来高が多いということは、自分の希望する価格で売買しやすいということにつながります。

この技は早く注文を約定させることが必要だからです。

実行に際しては、できるだけ有名な銘柄を選びましょう。

簡単な見分け方ですが、板がよくピコピコ光っている銘柄が出来高が多い、

逆に全然光らない銘柄は出来高が少ないと考えていいです。

ヤフーやNTTドコモのような有名企業と、

あまり有名でない地方企業の板を見比べてください。一目瞭然です。

3点目は逆日歩に注意すること。

信用売りが多すぎる銘柄を信用売りすると、

逆日歩という名目でいくらかお金が徴収されることが決まっています。

極端な信用売り増加を食い止めることが目的とされているようです。

しかし逆日歩なんて滅多に発生しません。

発生すると、売買前に証券会社が知らせてくれますので安心してください。

これはほとんど無視できる要素だと思います。

株主優待の権利付き最終売買日は、3月と9月に集中しますが

実は5月や6月に設定している企業もあります。

再掲載しますが、<https://newtrading.etrade.ne.jp/ETGate> こちらでご確認ください。

ですので、毎月のようにこの技が使えるわけです。

簡単な実例をご紹介します。

権利付き最終売買日が最も多いのは3月なので、

2月中にはターゲットの銘柄を絞りこんでおく。

絞り込むための基準は何でも良いが、

自分が欲しい内容の優待がもらえる企業がいいでしょう。

次に具体的な日程をカレンダーにかきこむ。

例えば、ターゲットが15日に最終売買日を設定しているのなら、

15日の下にもその銘柄をかきこんでおく。

資金に余裕があるのなら数社かきこんでも良い。

だいたい月半ばと、月末に最終売買日を設定している企業が多いので、

月に2回は実行できることになる。もちろん1日に2社の優待をとるのであれば、

月4回この技を実行できることになります。

最終売買日の前日、いくらで両建てするか決めておく。

あらかじめ決めておくことにより、本番で動揺しなくてすむからである。

その翌日、買いも売りも全て反対決済して何も建ててない状態に戻る。

0の状態に戻る。これを毎月のように繰り返せば、毎月優待がもらえます。

こんなに優待使い切れない！という方はオークションで転売してもらってもかまいません。

友人にプレゼントしてもいいでしょう。違法ではありませんのでご安心を。

ここでちょっとしたテクニックをご紹介します。

さきほど、現物買いと信用売りの価格は同じほうが良いと書きましたが、

別に異なっても構いません。

銘柄にもよりますが、だいたいの銘柄は一日の間に1%は必ず動きます。

例えば、1000円で始まったのであれば、

だいたいといっていいほど、990円から1010円の間で動くものです。

もちろん出来高が極端に少ない銘柄はこの限りではありません。

このように動くものですから、995円で現物買いしておいて、

1005円で信用売りしておけば逆に利益がでる計算になってしまいます。

売買手数料が高い証券会社を使っていれば、

手数料に吸収されてしまいますが、

手数料が安い証券会社を使えば利益をあげることも十分可能です。

これは慣れている人におすすめの技なので、

初心者の方はできるだけ、現物買いと信用売りの価格は近いほうが良いでしょう。

翌日には必ず反対売買をしましょう。

いくらで反対売買しても損はでない計算になりますので気楽ですね。

3月に権利落ち日が設定されている銘柄は、だいたい5月・6月に優待を発送してくれます。

2、3ヶ月先に手に入ると考えてください。

あと、優待利回りという指数が存在します。

この数値が高ければ利回りが良いということになります。

具体例をあげますと、

100万円分の株を購入して1万円分の優待がもらえるなら、その銘柄の利回りは1%になります。

3万円なら3%ですね。

このように、利回りの良い銘柄を買えばそれだけペイが増えるわけですが、

そういった銘柄は権利落ち日になると逆日歩がついたり、

株価の値動きが激しくなる傾向がありますので、

最初の頃は利回りが低い銘柄を中心に練習すればいいでしょう。

利回りはどこで見れるか？四季報で簡単に見ることができます。

四季報の巻末のほうに、株主優待を含めた実質高利回りランキングというデータがありますので

それを参考にしてください。

具体例をあげます。

2004年春号の四季報によると、最も利回りが高いのは

ライブドア（4753）。野球の新規参入問題で有名な企業です。

ライブドアの利回りはなんと150%。ということは単純に考えて、

100万円分ライブドアの株を買ったと、150万円分の優待がもらえるということになります。

驚きましたか？が、しかし世の中はそんなに甘い話はありません。

そもそもライブドアの株式優待というのは同社のパソコンソフトなので、

生活においてはあまり役にたたないかもしれません。

ヤフーオークションでは、ライブドアの優待でもらえるソフトが

数多く出品されており、値崩れをおこしています。

最近では780円で出品されてました（笑）。

資格学校のTACも利回りは46%という高利回りですが、もらえるのは受講割引券です。

オークションで出品しても値崩れをおこしてますし、

生活に役立つわけでもありません。

このように、利回りだけで判断せずに、何がもらえるかで判断してください。

おすすめは買い物券やギフト券でしょう。

これらは実生活で直接役に立つばかりでなく、

オークションで出品してもなかなか値崩れをおこさないという性質を持っています。

これらの優待で最も利回りが良いもの。それは東急百貨店です。

なんと利回りは9%！他にも、コンビニのスリーエフなら6%ですし、マックスバリュ西日本も6%あります。（2004年現在）

よく質問があるのですが、この技を使って株式配当金を得ることはできません。

配当についてはご存知だと思いますので説明は割愛させていただきます。

要するに、権利落ち日までに株を買っていれば、持ち株比率に応じて配当金がもらえるのですが、

信用売りをしていれば配当金が別途徴収されてしまうのです。

何故なら、信用売りというのは、株を借りているわけですから、

本来なら貸主が得るであろう配当金も株の借主が補償しなければならないからです。

どうしても配当金が欲しい場合は、信用売りはしないで下さい。

株価値下がりリスクは問わずもがなです。

もちろん株主優待については、信用売りをしていようがしてまいがもらえますのでご安心を。